

クレーンを起因物とする飛来・落下の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	8	16 ～ 17	ペレット(プラスチック原料)製造で、袋詰めの粉体原料(1袋25キログラム)40袋をパレットハンガー(つり具)に乗せて天井クレーンで吊上げていたところ、クレーンの巻上げ用ワイヤロープが切れて荷が落下し、クレーンの操作者が下敷きになった。	10805	10 ～ 29
1999	11	8 ～ 9	鉄骨の穴あけ作業で、鉄骨置台上の鉄骨を5トンの天井クレーン2台を使って90度回転させる作業を行い、クランプを外して鉄骨置台から降りたときに、鉄骨が置台上から落ちたため鉄骨と柱との間に挟まれた。	11209	50 ～ 99
2000	4	9 ～ 10	鉄骨材(長さ約8.7m、重量約434kg)に補強用のリブを溶接する作業で、架台の上に並べられている2本のH鋼のうち奥にあるH鋼の向きを変えるため4.8t吊り天井クレーンで1本吊りで吊り上げたところ、吊荷のH鋼がぶれて手前のH鋼に当たったため、このH鋼が架台から落下して腹部の上に載った。	11209	10 ～ 29
2000	11	17 ～ 18	鋼製バンドで梱包された4段の鋼製材の上にあった25個のスキッド(鉄板を敷くための受台重さ500Kg)を天井クレーンで巻上げたところ、吊荷のスキッドが揺れて隣に積んであった7段の梱包された鋼製材に当たったため材が落下してきて頭を直撃した。	11209	30 ～ 49
2000	9	9 ～ 10	プラスチックの原料再生工程で、押出機のホッパーに原料を投入してペレットの生産を開始したが不良品が出てきたのでホッパーごと原料を取り除くため、繊維ロープを掛けて天井クレーン(2t)で移動させていたところ、繊維ロープがクレーンフックから外れホッパーが落下して腰付近に当たった。	10805	10 ～ 29
		11	資材倉庫において、玉掛けした角材2本を天井クレーンで吊り上げ、横移動さ		50

2001	4	～ 12	せていたときに、北側に積み上げてあった角材に吊荷が接触したためベルトスリングが緩んで角材が落下し頭部を直撃した。	30202	～ 99
2001	5	13 ～ 14	鉄製のケース(質量500kg)を2.8tホイスト式天井クレーンで吊って移動中、ワイヤロープがフックから外れてケースが倒れ、下敷になった。	11709	10 ～ 29
2001	6	11 ～ 12	天井クレーン(0.9ホイストが4基付いたもの)を用いて、アルミ製の型材が載せてあるパレット(鋼製)を積むため本体を回転させようとして誤って爪の開閉スイッチを押したため、吊っていた型材(約400kg)が頭に落下した。	11209	30 ～ 49
2001	11	16 ～ 17	鉄骨の柱(重さ約10t)を定格荷重20tの無線式天井クレーンで移動させるため玉掛けしていたところ、鉄骨の柱が台の上から落下してきて玉掛に激突した。	11209	100 ～ 299
2002	2	15 ～ 16	鉄骨部材(質量約600kg)のメッキ処理作業で、天井クレーンで鉄骨部材を吊り上げてメッキ槽に投入する際、部材の確認をしようと吊られている荷の下に入ったところ、シャックルが外れたため吊り荷の鉄骨部材が落下してきた。	11204	10 ～ 29
2002	5	15 ～ 16	クレーン(最大吊り上げ能力55t)で10tトラックからケーシングチューブ(長さ1.9m、径1.7m、重さ2.5t)の積み下ろし作業中、ワイヤロープの片方のフックがはずれたため、チューブが立ち上がり腹部を直撃れた。	40301	10 ～ 29
2002	3	15 ～ 16	天井クレーン(20/10t吊り)でH鋼(質量約1.1t)をトラック(15t高床平ボデー)に吊り上げ、荷台上で玉掛けに使用したクランプを外してフックを巻き上げたときに、クランプがH鋼に引っ掛かったためH鋼とともに落下しH鋼の下敷きになった。	40301	1～ 9
2002	9	9 ～ 10	重さ187kgの鋼板8枚を定格荷重2.8tの天井クレーンで工場内の加工場から材料置場まで移動中、玉掛ワイヤーがフックから外れたため、吊り荷の下でまくら木の据えつけ作業をしていた者の上に荷が落下した。	11209	1～ 9
		11	スクリーシャフト(長さ11.2m、径45cm、質量約14t)を旋盤からトレーラーに積み込むため、並置された天井クレーン2基(定格荷重40/10tの		1～

2002	9	～	主巻及び定格荷重40/15tの補巻)を使用して合い吊りし走行運転していたところ、玉掛けスリングベルト2本のうち後方のスリングベルトがスクリーシャフトから抜けて荷が落下し天井クレーン運転士を直撃した。	11209	9
2002	6	15 ～ 16	建築用の鉄骨製作で、コラム柱(全長7.5m)をポジショナーにセットするため天井クレーン(5.07t)で反転作業を行っていたところ、先端の母屋ピースが他の部材に引っ掛かったので柱を揺らしながらつり上げて外そうとしているときに、仮付け溶接部分が破断して柱が落下し下敷きとなった。	11209	30 ～ 49
2003	1	16 ～ 17	マンホール部品製造工場において、砂型の塗型作業中、床上操作式クレーン(2.8t)で作業台の上につり上げていた質量400kgの砂型がつり具のワイヤから外れて落下し激突された。	11002	30 ～ 49
2003	2	2 ～ 3	発進立坑内で、つり上げ荷重15tの天井クレーンのホイストに取り付けてあるチェーンブロック回収箱がはずれて約15m下に落ち、それが立坑下に降りていたクラムバケットにあたり飛びはね、クラムバケットを介助していた者の頭部に激突した。	30102	30 ～ 49
2003	3	17 ～ 18	つり上げ荷重5.1tのホイスト式天井クレーンを空荷で移動中、通路上にせり出していたH型鋼(長さ12m)の下をくぐろうとしたときに、クレーンのペンダントスイッチのケーブルがH型鋼に引っかかったためH型鋼が頭部に落下した。	11209	30 ～ 49
2003	3	14 ～ 15	船舶用緩衝材の金型保管ヤードで、天井クレーンで金型(鉄製、長さ3.8m、幅1m、高さ1.1m)を2段に重ね置いたのち、次の荷役のため外した玉掛けワイヤを巻き上げていたところ、ワイヤが金型の蓋(質量約2t)に引っかかったため、ずり落ちて退避しようとしていた者に激突した。	50101	10 ～ 29
2003	3	8 ～ 9	トラックの荷台から9～12mの5本を1組としたH鋼を下ろし、既に積まれている工場のH鋼の上に積み上げる作業で、H鋼とH鋼の間にいったん木を入れ、その後その木を抜くため再度クレーンでH鋼を少し持ち上げ、隙間から入っていた木を取ろうとしたときに、重ねていたH鋼の上3本がくずれて落下し下敷きになった。	11209	10 ～ 29
			製鉄所のノロ取り機(定置式のブレーカー)のブームシリンダの交換作業		

2003	6	20 ～ 21	で、作業終了後に試運転をしたところシリンダー部分から油漏れがあった。 再度、補修作業を行うこととし、ノロ取り機のブームを起こすため懸垂式の 天井クレーン（4t）に玉掛けしてつり上げようとインチャング操作をしたとき に、過負荷によりホイストが落下し激突された。	11001	300 ～ 499
2003	10	11 ～ 12	橋形クレーン（つり上げ荷重4.8t）でH型鋼（長さ10m、幅0.9m、質量2t）を トレーラーへ積み込む作業中に、トレーラー上に積んだH型鋼に橋形クレーン の脚部が当たってH型鋼が落下しかかったので、荷台上の誘導者が荷台から飛び 降りたときにH型鋼が落下してきた。	40301	10 ～ 29
2004	12	13 ～ 14	工場内において、クレーンにより、鉄製の台座をつり上げ移動させようとし たところ、荷の台座が倒れ、被災者に激突した。	11301	10 ～ 29
2004	7	15 ～ 16	H鋼を加工する作業場において、クレーン運転士が、H鋼を移動させた後、巻 上げと移動を同時に行ったところ、つり具の先端がH鋼に引っかかり、H鋼を 加工するために線引きをしていた被災者の上に落下した。	11209	30 ～ 49
2004	10	7 ～ 8	倉庫内のホイスト式天井クレーンを使用して作業を行っていたところ、つり 上げていた鋼板が荷崩れをおこし、当該鋼板が被災者を強打した。	40301	1～ 9
2004	11	15 ～ 16	鉄工所内で、鋼材を溶接で組み合わせた長さ8.6m、幅1.5m、重さ290kgの建 設資材を製作中に、被災者が作業台の上に上がり、この資材を床上操作式天 井クレーン（つり上げ荷重1t）でつり上げていた時、フックから資材が外 れ、資材とともに被災者も転落し、その下敷きになった。	11209	1～ 9
2005	3	8 ～ 9	橋型クレーンで加工済みの異形棒鋼を24本番線で束ねた荷（重さ760kg）を つり上げてトラックに積載する作業中、つり荷の下敷きとなった。	30309	10 ～ 29
2005	1	15 ～ 16	工場内で射出成形機から金型を取り外すため、天井クレーンにて金型をつり 上げようとしていたところ、クレーンの走行車輪が走行レールから外れ、落 下したクレーン本体のサドルが、直下でクレーンを操作していた被災者に激	10805	10 ～ 29

			突した。		
2005	12	13 ～ 14	工場内において、天井クレーンを操作してブリキ板を巻いたコイル（800kg）をCフックを用いてつり上げ、移動させようとしたところ、コイルが落下し被災者に激突した。	11209	10 ～ 29
2005	3	10 ～ 11	作業に必要なH形鋼の上に置かれていたH形鋼をクレーンで移動させようとしていたところ、H形鋼が落下し、被災者が落下物と床面との間に挟まれた。	11209	30 ～ 49
2005	4	14 ～ 15	ホイスト式橋形クレーンを使用し、トレーラトラックよりH形鋼の荷下ろし作業を行っていたところ、仮置きしていたH形鋼が被災者がいた手前に落下し挟まれた。	11001	10 ～ 29
2005	5	10 ～ 11	工場内にある床上操作式の天井クレーンで金属製パイプの束をつり上げ移動させていたところ、付近に積んであった養殖いけす用の金属製栈橋に玉掛け用の繊維ロープが接触、金属製栈橋が2.5mの高さから落下し、付近で溶接作業をしていた被災者に激突した。	11209	10 ～ 29
2005	9	8 ～ 9	船舶用の電気スイッチボックス（1個7kg）18個を段積パレットにてつり上げ、2階の作業場より1階へ下ろしていたところ、クレーンの荷振れにより、つり荷の一部が落下し、そのうちの1個が下で作業していた被災者を直撃した。	11209	10 ～ 29
2006	9	13 ～ 14	被災者は、クレーン（つり上げ荷重2.8t）2台を使用し、積み重なっているH型鋼5本（400×200×8/13、総質量約2t）をつり上げ、別のH型鋼（450×210×9/14）の上に置こうとしたところ、吊り荷のH型鋼の内一番下を除く4本が落下し、被災者が下敷きになった。	11209	10 ～ 29
2006	11	21 ～ 22	製鉄所の製品倉庫前からクレーンで鉄板5枚を吊り上げ港に係留されてある船の船倉に降ろす作業中、船倉の上でクレーンを停止中に下2枚の鉄板（約4.5トン）が落下し、船倉にいた被災者にあたった。	50202	100 ～ 299
		17	吊上荷重27トンの天井クレーン（トング付き吊ビーム、自重9トン）を用いて資材を吊り上げるため、トングキーを「開」の状態でもトング付きビーム		30

2006	12	～	を3メートル巻き上げ、走行、横行及び旋回し、荷の上まで移動させたところ突然トングキーが抜け、そのことでアームが伸び、その下で玉掛けのため待機していた被災者を直撃した。	11001	～	49
2007	8	16 ～ 17	トラック重機ラインにおいて、同僚が単独でつり上げ荷重2.8tの天井クレーンを使用して貨物自動車の荷台をつり上げて同車両を解体していたところ、つりチェーンのフックから荷台がはずれて降下し、貨物自動車荷台の下をのぞきこんだ被災者が荷台と車台の間にはさまれた。	11701	～	100 ～ 299
2007	3	16 ～ 17	機械加工工場において、軽量H鋼加工作業中、ホイスト式天井クレーン（定格荷重2.8t）を無線操作していたところ、クランプによりつり上げていた軽量H鋼がラック（高さ約2.58m）に積み上げていたフラット鉄板に接触し、当該フラット鉄板2枚（重量1枚160kg）が落下したため、直下にいた被災者に激突した。	11209	～	50 ～ 99
2007	2	5 ～ 6	製鋼工場ブルームCC（連続鑄造装置）ダミーバー置き場において、被災者がダミーバーと呼ばれる鑄造作業に使用する部材のサイズを変えるため、地上約4.4mにあるダミーバーテーブルに置かれたダミーバー（約1.7t）の先端をクレーンで1Fフロアーに移動中、つり具（ピン）が外れつり荷が落下し、運転していた被災者に当たった。	11001	～	100 ～ 299
2008	2	13 ～ 14	工場内で船舶用部品（押し船用圧着シュー）の組立て作業中、部品（1.6t）を5t天井クレーンでつり上げてシリンダー部に取り付けようとしたところ、玉掛けワイヤロープが切断して倒れた部品の下敷きとなり死亡した。	11501	～	10 ～ 29
2008	9	11 ～ 12	工場内において、天井クレーンで鋼板20枚（長さ4.4m、幅1.5m、厚さ4.5mm14枚、長さ3.8m、幅1.5m、厚さ4.5mm6枚）をL字型ハッカーを使用して運搬作業中、荷が振れて鋼板が飛び出すように崩れ、下から2枚の鋼板が被災者に激突して下敷きになった。	11209	1～	9
2008	6	9 ～ 10	作業者が運転したつり上げ荷重40.9tの天井クレーン（同一クレーンガーダ上につり上げ荷重82.1tのホイストがある）のつり具と停止中の壁クレーン（定格荷重2.8t）が接触したことにより、当該壁クレーンが走行レールから外れて落下して大型プレス機械用電気ケーブルの結線作業を行っていた被災者を直	11301	1～	9

			撃した。		
2008	2	13 ～ 14	工場内で鉄板の束（4束、8t）を無線操作の天井クレーン（20t）で被災者が操作して荷積み作業中、片方のハッカーが外れていないまま荷下ろし後に巻き上げたため、積んだ荷が片側だけ持ち上がり、被害者が背後の荷との間にはさまれた。	11209	50 ～ 99
2009	9	9 ～ 10	空調ダクトを製造する工場で、ダクトの材料となるロール状に梱包された亜鉛鉄板コイル（L1.85m、φ0.88m、重量約2.4t）を天井クレーンにて、玉掛け用具を介しつり上げ移動させたところ、荷が玉掛け用具から外れ、クレーンを操作していた被災者に落下した。	11209	30 ～ 49
2009	10	15 ～ 16	金型取り付け板（鉄製550×950×60cm、重さ約250kg）をリフティングマグネット（外部電源式、制限荷重1.2t）をフックに取り付けたクレーン（つり上げ荷重2.8t）にてつり上げ、研磨機のテーブルの上に乗せる作業中、金型取り付け板がリフティングマグネットから外れ、被災者に激突した。	11209	10 ～ 29
2009	12	9 ～ 10	加工場において、被災者が資材置場にある鉄筋（長さ4.5m、直径10mm、1束60本×10束、重量1.512t）をつり上げる準備のため、鉄筋束の片方にワイヤロープ2本を掛けて天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で玉掛け作業中、玉掛けワイヤロープから鉄筋がすり抜けて落下し、つり上げた鉄筋束の下にあった別の鉄筋束に接触し、その反動で被災者側に崩れ落ち被災者の後方にあった鉄筋束との間にはさまれた。	11209	10 ～ 29
2009	1	9 ～ 10	作業員4人にて2.8t天井クレーンを用いてトラックの荷台（H=1400）から鉄板（1200×2400、t=8）8枚（1.72t）を玉掛け用繊維ロープにて2箇所に玉掛けを行い、地面へ降ろしていたところ、つり荷がバランスを崩したことにより、荷が玉掛け用繊維ロープからすべるように落下した。被災者は、つり荷のそばで荷降ろし作業の補助を行っていたところ、落下した荷の下敷きとなった。	11209	1～ 9
		18	H鋼（長さ7m、重量300kg）の片側に玉掛け用チェーン1本が掛けられた状態で、ホイスト式天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で片側がつり上げられており、被災者はその崩れたH鋼付近で発見された。被災者の死		

2010	2	～	19	<p>因は胸部圧迫による窒息死であった。被災者は玉掛け技能講習及び5 t未満クレーン特別教育修了していた。現認者はいないが、発見された状態から、H鋼の片側だけをつり上げ、又は1本づりで平衡を失ったことで、荷がすべて落下したとみられる。</p>	11209	1～ 9	
2010	5	8	～	9	<p>客先の倉庫において、修理を依頼された漁船の集魚灯用発電機（重量約4 t）をトラックに積み込むため、倉庫に設置されていたホイスト式天井クレーン（2ホイスト2フック、つり上げ荷重2.8 t）を使用して発電機をつり上げていたところ、一方のホイストのワイヤロープの固定端圧縮止め部が破断し、フックブロックとともに落下した発電機の下敷になった労働者1名が死亡したほか、発電機に接触した労働者1名が負傷した。発電機を2台のホイストで共づりした際、一方のホイストに荷重が偏心し、負荷された荷重が当該ホイストの許容荷重を超えたとみられる。</p>	11702	1～ 9
2010	7	8	～	9	<p>産業廃棄物処理工場内において、運転席付きの天井クレーン（つり上げ荷重8.75 t）を使用し、くず鉄を移動する作業を行おうとしたところ、付近に積み上げてあった破碎前の自動販売機（積み上げた高さ約5.5 m）に、同クレーンのフックに取り付けたリフティングマグネットが接触したため、同自動販売機が崩落し、付近で作業中だった労働者2名のうち1名がその下敷きとなり死亡し、もう1名が軽傷を負った。</p>	150102	1～ 9
2010	7	8	～	9	<p>機械に据付けるL字型の足場材（重さ86 kg、長さ130 cm、幅70 cm）を7.5/4.5 tクレーンの補巻を用い、つり上げたところ、過巻き防止装置作動後も解除スイッチを使用して巻き過ぎたために、つり上げ用ワイヤロープが切れ、フックが被災者に当たり頭部を負傷し死亡した。また、付近にいた同僚にも吊り荷が当たり、左脇腹を負傷（不休）した。</p>	11009	1～ 9
2010	10	15	～	16	<p>被災労働者は、つり上げ荷重7.7 t+7.7 tの橋形クレーンを操作し、橋形クレーンを移動させていたところ、クレーンのフックに取り付けられていた玉掛け用具のナイロンスリングが積み上げられていた最上段のPC板（規格値：1200×5300×120 mm、重さ：1.2 t）にひっかかり、PC板が被災労働者に落下し、被災したみられる。被災者は無資格で</p>	10909	1～ 9

			あった。		
2011	3	10 ～ 11	当該工場内でトレーラーから角鋼（長さ12メートル、重量1500キログラム）の荷卸しを行っていた際、2台の天井クレーンで共づりをしていた片側のつり具（ハッカー）が何らかの原因により外れ、運転者が角鋼の下敷きになり死亡したものの。	11209	10 ～ 29
2012	10	16 ～ 17	被災者は2本あるシールドのうちひとつのシールド坑内にて作業中、PHSに回答しなかったため同僚が現場に駆けつけたところ、自走式台車と台車レールとの間にはさまった状態で発見された。	11702	50 ～ 99
2013	9	10 ～ 11	スタッパークレーン（定格荷重1トン）の年次点検作業を行っていた点検業者の作業員が、クレーン下部にある昇降モーターのブレーキを点検した後カバーを取り付けたところ、上部約2・7メートルの高さにあった昇降台（約600キログラム）が突然下降し、昇降台のフレーム部と床面に背中を挟まれ、まもなく死亡が確認された。	170209	10 ～ 29
2013	3	10 ～ 11	被災者は、工場出荷場所において、台車に載ったH鋼上に盤木を設置し、天井クレーン（定格荷重5t）で鉄骨梁製品H鋼（長さ7.3m、重量約1.4t）を吊上げその上に設置する作業を行った後、吊り具のハッカーを外す作業を行っていた。その際、ハッカーが完全に外れていない状態でクレーンを被災者側の方向に操作したため、当該H鋼が落下して被災者の胸部に激突した。	11209	1～ 9
2013	2	8 ～ 9	被災者は、天井クレーン（定格荷重1t）を用いて金型（重量約970kg）をつり上げ、マシンにセットするため移動させていたところ、フックブロックとチェーンの接続部分のピンが破断して金型が落下し下敷きとなった。	10805	30 ～ 49
2014	9	9 ～ 10	旋盤機部品を仮置きするため、天井クレーンでつり上げたところ、フックから玉掛用ワイヤロープが外れ、つり荷が落下し、クレーン操作を行っていた被災者が下敷きになった。尚、フックの外れ止めは具備してあったが、災害発生時に破損していた。	40301	50 ～ 99
		7	橋形クレーンが設置された資材置き場内にて、結束された鉄筋の束の下敷き		10

2014	9	8	～	になり、俯せの状態で倒れているところを、同僚に発見された。	11209	～	29	
2014	9	3	～	移動式台車の上に設置されている金型プレートを天井クレーンで吊り上げていたところ、クレーンのワイヤーが切れ、金型プレートが落下。金型の一部が台車に当たり、バウンドして被災者の方向に飛来し、半身が金型の下敷きとなった。	11502	300	～	
2014	8	11	～	12	保管庫内にて、木製の柱をクレーンで大型トラックに積み込む作業中、クレーンを操作し、木製の柱を地切りしたところ、バランスを崩し、並べて置いてあった隣の木製の柱に接触し、柱が落下。トラックの荷台付近で待機していた被災者がトラックの荷台と木製の柱に挟まれた。	40301	10	～
2014	3	14	～	15	設備を事業場建屋内に移設仮置きする作業中、建屋に設置されていたクラブトロリ式天井クレーンを無線機にて操作し、荷を取りに向かうため、クレーンの走行及び横行の操作を行っていたところ、クラブ横行車輪が横行ストッパーに当たり、衝撃でストッパーが脱落し、落下。被災者の頭部に当たり、死亡した。	30302	10	～
2015	6	10	～	11	被災者は、橋形クレーン（つり上げ荷重30.404/10.173t）の補巻でH鋼（692×300重量約2t）をクランプ2点吊りでつり上げ、ショットブラスト装置への搬送用コンベヤーに載せた後、玉掛け用ワイヤロープを緩め、クランプを外し、H鋼に沿ってクレーンを走行させていたところ、片側のクランプがH鋼に引っかかり、H鋼の端部が20～30cm浮き上がりコンベヤーから落下し、被災者の腹部に激突したもの。	11209	10	～
2016	11	16	～	17	産廃の分別作業場において、被災者が定格荷重2tの天井クレーンを操作し、両端にハッカーを取り付けた吊り天秤を用いて玉掛けした重量約800kgの産業廃棄物輸送用脱着コンテナ（通称：バツカン）を運搬していたところ、つり荷のバツカンが滑り落ちて当該角部が被災者の側頭部を直撃した。	150102	1	～
2016	9	16	～		被災者が天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）を運転し、建築用鉄骨部材（1.2t）を玉掛けし、移動させようとしたところ、玉掛け用具から外れ	11209	30	～

		17	建築用鉄骨部材が落下し、被災者に当たった。		49
2016	6	16 ～ 17	被災者は橋形クレーンを用い、自ら玉掛けし、H鋼（約10.3×0.9×0.3m、約1～2t）をH状に置かれた状態からI状に起こしていた。被災者がH鋼を起こし終わり、荷外したクランプを起こしたH鋼から十分に離さないままクレーンの操作をしたことでクランプがH鋼のフランジに引っ掛かり、H鋼がつり上げられたところでクランプが外れ、H鋼が倒れて被災者の腹部がはさまれた。	11209	10 ～ 29
2016	6	11 ～ 12	天井クレーンで台車上に鉄骨を移動させた後、玉掛け者は荷外しされたハッカーをフックにかかった状態で鉄骨脇に束ね、被災者はハッカーの状態を見ずにクレーン操作をしたところ、ハッカーが鉄骨に引っかかったことによりつり上がり、鉄骨が被災者に向かって倒れた。	11209	1～ 9
2016	3	13 ～ 14	被災者は、橋形クレーン（5.07t）を使用し、トレーラーヘシートパイル（8枚1山（約4t））の積み込み作業を行っていた。トレーラーの運転手が玉外し後、玉掛けワイヤー（4m）をクレーンのフックにのの字掛けにした。次の山を取りに行くため、被災者がクレーンを走行させていたところ、ヤード内に段積みされていたシートパイル2枚が落下し、被災者に激突した。	50101	10 ～ 29
2016	2	8 ～ 9	急傾斜地の崩壊防止工事現場において、ケーブルクレーンを用いて、解体した単管足場の部材をつり上げたところ、部材が崩れ、足場上にいた被災者に激突し、法面から転落した。その後救急搬送されるも、搬送先の病院で死亡した。	30199	10 ～ 29
2018	10	16 ～ 17	製品である建築用鉄骨（長さ8.7メートル重さ約2.6トン）を橋形クレーンにて、構内運搬用のトラック荷台に4本積み込む作業中に発生したもの。最後の1本を積み込み、玉掛け用ワイヤロープを外し、フックを巻き上げたところ、当該鉄骨が崩れ、落下し、橋形クレーンを運転していた被災者が当該鉄骨と、背後に積まれていた鉄骨に胸部等を挟まれた。	11209	100 ～ 299
2018	4	16 ～	原料製造工場において、被災者が一人でつり上げ荷重4.843tのホイスト式天井クレーンを用い機械のメンテナンス作業中、ホイストがクレーン	150102	100 ～

		17	ガータから外れ、被災者の上に落下し被災したもの。		299
2019	7	10 ～ 12	砂防ダム築造工事現場において、下請の専門業者がケーブルクレーンを解体するため、先柱にあった搬器を横行索の動力で元柱に戻していたが、途中で木の枝が搬器に引っ掛かり、それに気づかず横行索を巻き続けたところ、搬器が急降下し、その反動で主索から脱落して振り子状態となり、堰堤右岸側の間詰め目地作業をしていた元請作業者の頭部及び胸部に飛来し、当該作業者が死亡したもの。	30106	10 ～ 29
2019	6	14 ～ 16	被災者1名で4.8tホイスト式天井クレーンを用いて0.7tと1.2tの長尺鉄骨(約7.8m)を14.8t構内搬送用トレーラーに積み込み作業中、荷台に積み込んだ0.7tの鉄骨が、既に積み終えていた1.2t鉄骨に倒れかかり将棋倒しのようになって、荷台から落下し、二つともFLで当該クレーンを操作していた被災者に激突して、頭部等を負傷し死亡したもの。	11209	10 ～ 29
2019	6	8 ～ 10	天井クレーンのフックに吊りクランプを掛けた状態で、クレーンを操作して積み上げたH型鋼の上方を通過させようとした際に、吊りクランプがH型鋼の最上部に引っ掛かって当該H型鋼が落下し、落ちていた番木を拾おうとして当該通路に入った作業者がH型鋼の下敷きとなった。	11209	10 ～ 29
2020	11	14 ～ 16	被災者は、天井クレーンを使用してトレーラーの荷台から長さの異なる鋼材を荷下ろしする作業において、鋼材両端を玉掛けした際、鋼材を適切に玉掛けせず荷上げをし、本来荷下ろしする方向と反対方向に横移動させた結果、荷台上にいた被災者が押し出される形で地面に落下し、荷が振れ、鋼材が被災者頭部に落下し、死亡したもの。	40301	1～ 9
2020	10	10 ～ 12	H鋼(1.6t、7m)を工場の外へ運び出すため、工場内の天井クレーン(10t)を使用してH鋼を台車に乗せる作業を行っていた被災者が、頭部を負傷した状態で台車上に倒れていたもの(即死状態)。H鋼は地面に落ちており、目撃者はおらず。	50101	1～ 9

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html